

熊本県公立高校入試徹底分析【社会】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	2022年度と同様に大問6題。地理・歴史・公民の分野ごとに各2題。 地理は、世界地理8点、日本地理9点の計17点(2022年度とは日本地理と世界地理の配点が逆)。 歴史は、近世までで9点、近代以降で8点の計17点。 公民は、政治分野8点、経済・国際社会8点の計16点。 令和5年度の問題は、昨年同様に平均点が低く、難問であったと言える。		

	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量(A4で)	11ページ分	11ページ分	11ページ分	11ページ分	11ページ分
小問数	45問	41問	42問	43問	43問
論述問題の数	10問	8問	9問	9問	9問
論述問題配点	15点	14点	15点	13点	15点
受験者平均点	28.0点	23.9点	23.6点	23.6点	25.5点

【出題の傾向と対策】

① 図や資料を見て、そこから読み取れる課題や変化を記述させる論述問題が、分野を問わず多く出題される。図や資料から読み取れる内容を正確に、かつもれなく読み取って、記述するため、過去の入試問題を5~10年分ほど解き、書き方を練習しておく。

R5 1
2(2) 図7は、中国の年齢別人口構成について、1980年から2020年までの推移と、2030年から2050年までの将来推計を示したものである。中国の年齢別人口構成の変化が、「世界の工場」とよばれるようになった中国の製造業に与える影響として今後どのようなことが考えられるか、図7から読み取れることを根拠として書きなさい。

(国連「世界人口推計2022年版」による)

①例年は、公民分野でも類似の形式が出題される。

①問題文に「今後どのようなことが考えられるか」とあるので、2030年以降に注目し、かつ、「製造業に与える影響」とあるため、15~64歳の生産年齢人口が減少していることを読み取る。

② 地理分野で、気候や雨温図に関する問題が出題される。各地の気候の特徴をしっかりと理解するために、多くの問題に触れておく。

R5 1
1(4) 図5は、◎で示した東京、ホンコン、オーランド、パリにあるテーマパークのそれぞれの営業時間を都市名の下()に現地時間で示し、東京、ホンコン、オーランドについては、日本時間での営業時間を で示したものである。東経15度を標準時の基準とするパリにあるテーマパークの営業時間帯を、図5の他の都市の例にしたがって解答欄に書きなさい。ただし、サマータイムは考えないものとする。

(国連「世界人口推計2022年版」による)

②単純に時差の計算をさせるだけでなく、長い問題文を読み、求められていることをしっかりと読み取る力が必要となる。

②例年は、表やグラフを使った気候の問題の出題が多い。

③ 歴史分野でも、歴史的な事象に関する場所を、地図の中から選択する問題が毎年のように出題される。社会の学習をする際は、教科書や資料集、地図帳を必ず活用し、場所や位置を確認しながら勉強する。

R5 4

1 下線部①(瓦版)について、図19は1853年にアメリカ東インド艦隊の司令長官としてわが国に来航し、開国を求めた を描いた瓦版である。 に当てはまる人名を書きなさい。また、その人物が1853年に来航した場所を、図20の・で示したア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

図19



図20



③ R4年では、朝倉氏の一乗谷の場所、R3年では、ポーツマス条約後に引かれた国境線、R2年では、石見銀山の場所、H31では、盧溝橋事件がおこった場所が問われている。

③ ペリーが来航した浦賀は現在の神奈川県にある。アは新潟、ウは大阪、エは長崎である。

④ 完答の問題が非常に多い。そのため、歴史の出来事、地理の統計、地図の読み取り、公民の語句 など、一つ一つの詳細を正確に覚えておく必要がある。

R5 6

5(1) 消費者契約や消費者問題に関する次のア～ウのそれぞれの文について、正しいものには○を、誤っているものには×を書きなさい。

ア 訪問販売で商品を購入した場合、一定期間内であれば契約を解除することができる。

イ 契約書を交わさなくても、契約したとみなされることがある。

ウ 消費者からの苦情や相談を受ける消費者庁が、各都道府県に設置されている。

③ R5年では歴史の3でも、類似の形式での出題が見られる。

④ この問題はア～ウの○・×が一つでも違えば不正解となる。アのクーリングオフの説明や、イの契約自由の原則に関する説明の正誤の判断は難しい。ウに関しても、各都道府県に設置されているものが消費生活センターであるとわからなくとも、消費者庁が内閣府の外局であることを覚えていれば解ける問題ではある。R3・4年でも○・×完答問題が5の法に関する問題で出題されている。

解答

R5 1 2(2) (例) 15歳から64歳までの人口が減少することが予測されるので、労働力が不足することが考えら



R5 4 1 人名:ペリー 記号:イ

R5 6 5 ア:○ イ:○ ウ:×